

謄写版と

平成二十二年 度 碧南市史資料収蔵品展

岡本家展

(創業一心舎)



紙原とこみ

標 (心) 商 (No.4)

一心舎

四花方眼

電話掛所41-0237

ISSHINSHA
MADE IN NIPPON
COPY-PRINTER PAPER

ごあいさつ

平成 20 年 3 月に、岡本妙子氏（碧南市大浜上町）より市史資料調査室に岡本家の資料をご寄贈いただきました。岡本家は明治初期に衣浦造船所を経営していた家で、造船業廃業後は印刷業を興しています。

ご寄贈いただいた資料は全 625 点で、その内、造船所関連資料が 273 点、印刷所関連資料が 331 点あります。造船所関連資料の内容は、地券、造船所日誌、金銭出納簿、海図、船舶修理明細簿、領収書、職工賃支払簿、私信等で明治 10 年から明治 40 年頃のもので、印刷所関連資料は大正 11 年から昭和 29 年にかけてのもので、その内容は謄写印刷講習会教本、謄写版作品集、講習会写真アルバム、文芸誌、青年団団報、唱歌集、町勢要覧、ハート原紙見本等々、広範囲にわたっています。

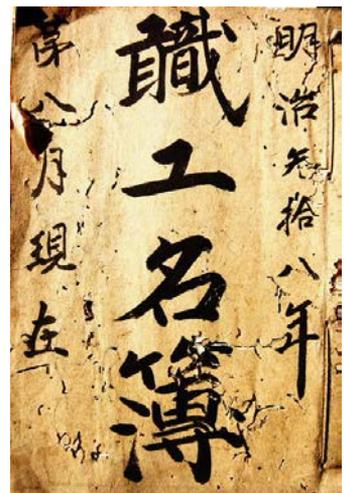
なお、一心舎を創業した岡本與一郎氏には 3 男 4 女があり、長男 功氏^{いさお}は與一郎氏のあと社長に就任し家業を継いでいます。二男 栗扶氏^{くりふ}は謄写印刷の資材販売を主として家業を手伝っていました。三男 万利氏^{まんり}は学業を終えた後、栗扶氏とともに家業に専念していたようです。栗扶氏は昭和 10 年に（資）一心舎印刷所を現在の碧南市天王町に設立、万利氏は満州国で満州一心舎を設立し、戦後は刈谷市で印刷業を興しています。

今回の市史資料収蔵品展は、ご寄贈いただいた資料のなかから、謄写版に関する資料、及び印刷業を興す前の衣浦造船所の資料を展示します。

衣浦造船所関連



全五巻	四ノワレヤ	五
三ノ五ノ六	三ノ五ノ六	三ノ五ノ六
明治十九年	明治十九年	明治十九年
八月	八月	八月
四十三	四十三	四十三
海老丸	海老丸	海老丸



一心舎式謄写印刷講習会

主な展示資料

1 衣浦造船所関連

千嶋丸用品徴(帳) (明治22年3月)
木曾川丸用品徴(帳) (明治22年)
職工賃支払 (明治23年1月)
超越丸用品認帳 (明治24年)
売当座 (明治25年1月)
人夫賃支払 (明治25年1月)
木材買入 (明治25年)
鉄金物賣上帳 (明治26年1月)
金銭出納帳 (明治26年7月)
衣浦造船所岡本利助日誌 (明治28年)
職工名簿 (明治38年8月)

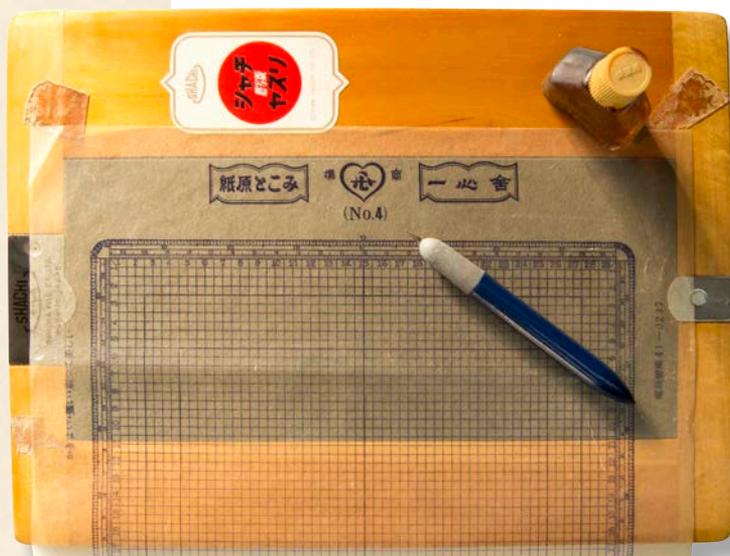
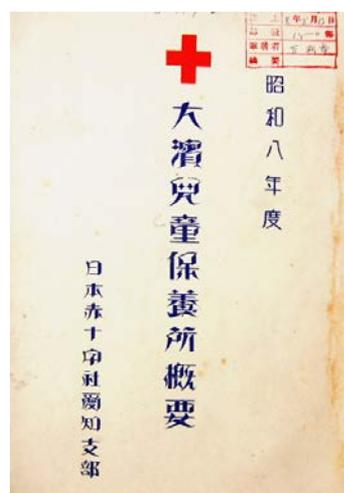
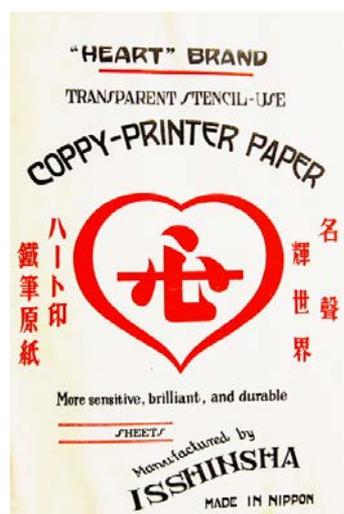
2 一心舎関連

謄写画集<一心舎謄写印刷研究部> (大正14年)
第48回一心舎式謄写印刷法講習会要項<一心舎> (昭和5年)
唱歌教材集謄写教本<一心舎謄写印刷研究部> (昭和6年)
向上 第14号<大浜青年団> (昭和7年)
碧海郡青年訓練所生徒聯合演習計画<碧海郡教育会> (昭和7年)
大浜警察便り第3号<大浜警察> (昭和8年)
経済更生計画<棚尾町経済更生委員会> (昭和8年)
町勢要覧<高浜町> (昭和8年)
高学年の経営と訓練<渥美郡若戸尋常高等小学校> (昭和8年)
男子青年訓練所聯合演習計画<幡豆郡青年訓練所> (昭和8年)
大浜児童保養所概要<日本赤十字社愛知支部> (昭和8年)
一心舎報第5巻第4号<岡本栗扶> (昭和9年)
経山寺味噌の製法<愛知県猿投農学校> (昭和9年)
町勢要覧<新川町> (昭和9年)
昭和7年度歳入歳出決算参考書<知多郡亀崎町> (昭和9年)
団報 第11号<横須賀村青年団> (昭和9年)
尋六学級経営案<愛知郡鳴海尋常高等小学校> (昭和9年)
校外農業指導摘要<額田郡福岡農商補修学校> (昭和10年)
謄写版講習会<碧南市立棚尾中学校> (昭和25年)
一心舎原紙<一心舎> (年代不詳)
多色刷り作品「更けゆく秋」他<一心舎> (年代不詳)

3 謄写版用具等

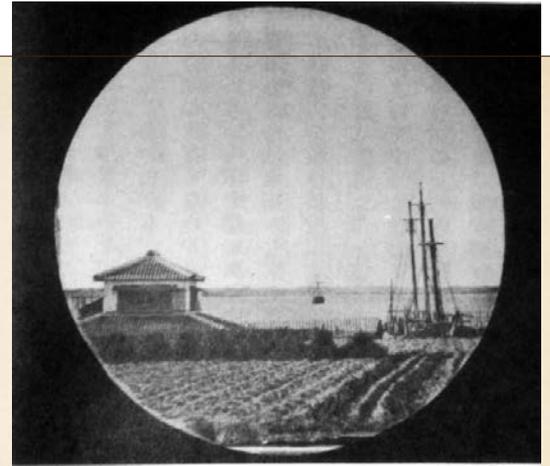
謄写版、ローラー、ヤスリ板、原紙、鉄筆、修正液
謄写印刷出版物、学級通信
謄写版多色刷り絵画
謄写版 <ガリ版> の発明と歴史
(堀井新治郎・耕造父子の偉業)

一心舎関連

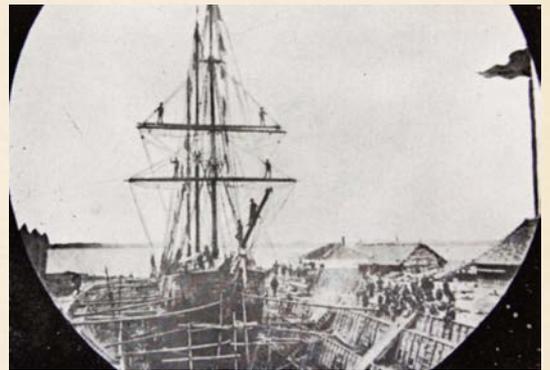


衣浦造船所

西南戦争が刺激となり、海運業界の主流が西洋型帆船に移っていった明治21年（1888）6月、上の宮熊野神社の南に碧南市内としては明治20年の三陶組（角谷安兵衛・岡本八右衛門・亀山竹四郎・服部長七の共同で設立した土管業）について二番目の会社組織、そして最初の株式会社として衣浦造船所は設立された。この造船所は、亀崎の船主たちが主となり、鶴ヶ崎の米穀商の岡本利助も事務担当者として参加した。

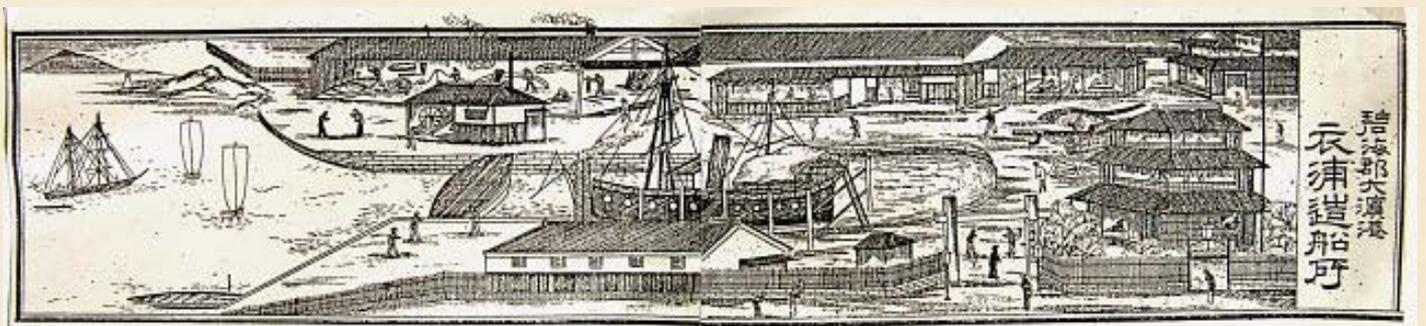


95人の職工によって主に西洋型帆船の建造を行い、八〇〇岡本八右衛門の船も修理した。しかし、会社の経営不振のために亀崎の株主が手を引いたので、岡本利助は養子の與一郎と共に経営に当たったが47歳で死亡し、その後は與一郎が経営した。時代は帆船から次第に蒸気船に移り、規模も鳥羽などに及ばなかった。また、進水式を終えて処女航海に出た建造船が伊良湖沖で座礁し、代金回収が困難となり経営を圧迫したこともあり、明治37、8年（1904、5）頃、廃業の止むなきに至った。



その後長い間ドックの跡がみられ、かつての造船所の面影をとどめていた。日中戦争（昭和12年）の頃からここに造船所ができ、第二次世界大戦中に300トン級の木造船が建造されたこともあり、活気に満ちていた。この船は「トボトボ歩く碧南市」によれば、「豊田丸」（昭和18年5月31日進水式）で海務局の計量船となるはずが戦争の混乱により、行き場を失ったようだ。

戦後の埋め立て造成等によりこの造船所も姿を消した。しばらくは、海苔船や碧南高校のヨット置き場になっていたが、現在は埋め立てされて往時をしのぶものはなくなった。



衣浦造船所の銅版画 （出典）「参陽商工便覧」明治21年

出典

- 「碧南市史第2巻」
- 「碧南事典」
- 「碧南市文化財第9集 碧南風土記抄」
- 「クイックス50年史」
- 「トボトボ歩く碧南市・造船所のはなし」

衣浦造船所の営業していた内容

陸用汽鐘汽機、諸種原動力、排水機、製糸、製粉、製材、織布、精米、其他総テ鉢鐵工ノ製造及据付船舶並船用機鐘製造（帆船汽船）修理並ニ船梁ノ貸與

（出典）「衣浦造船所営業種目」

一心舎の創設

與一郎は明治39年(1906)に船渠(ドック)や機械製作、造船業視察のために渡米・渡欧した。翌年に帰国し、明治37、8年に廃業した造船業の復興を考えたが、岡崎の実兄の勧めもあって造船業復興を断念した。生計を立てるために與一郎は、長い米国生活で身につけた英語を生かして通訳や梅村学園の英語教師をしていた。教材や資料を謄写版で作成しているときに謄写版の将来を予見し、謄写版の研究を始めた。

滋賀県の堀井新治郎・耕造父子が明治27年(1894)に鉄筆製版の謄写版を発明し、明治30年代は謄写版が全国的に広まった時期である。與一郎と堀井父子との間に接点があったかどうか分からないが、造船業を廃業した與一郎は謄写版業に身をおくことになった。

当時市販されていた謄写版原紙の多くが鉄筆で字を書くと指先が疲れたり、インクの通りが悪くかすれたり、孔がロウでつまるがよくあった。與一郎はその点に着目し、謄写版原紙改良のために雁皮紙(雁皮の樹皮を原料にした和紙でロウ原紙の材料)の紙漉き現場を訪ね歩き、四国で謄写版原紙に適した雁皮紙を得た。

大正6年(1917)に「一心舎」を起こした與一郎は、その雁皮紙に工夫を重ねたハートマークの「一心舎謄写印刷原紙」の開発に成功し、世に送っている。さらに、謄写印刷に使われているローラーにも目を向け、ロウ原紙に書かれた原稿を忠実に転写するには市販のゴムローラーでは柔軟性に欠けるとして、ゼラチンローラーも開発した。

與一郎には3男4女の子があったが、子供たちは成長するとともに「一心舎」の担い手となった。



一心舎の広告

一心舎の系譜

一心舎(大正6年創業) 與一郎・功 …… 昭和62年、功死去により廃業

↓
一心舎研究部(大正13年) → (資) 一心舎印刷所(昭和10年) 栗扶 → (株) 一心舎に社名変更(平成22年)

↓
満州一心舎(昭和13~20年) 万利 → (帰国) → 刈谷町営作業所(昭和22年)

↓ (途中省略)

(株) 刈谷高速印刷(昭和46年)

↓
(株) クイックスに社名変更(平成元年)

一心舎製「ハート原紙」への思い

『心のまこと』より

昔此の大浜の里に加藤四郎左衛門の妻で菊女と云ふ方がありましたが、本當に婦道にかなった立派な女でありました。或るとき、夫の四郎左衛門が事の間違より罰せられて伊豆の大島へ流されました。島の四郎左衛門はよくお上の規則を守っておりましたが、何分遠い所ですから妻の菊女と行會ふこともかなひませんでした。

お菊は18歳の時でありましたが、日々これを歎き、どうかして夫が無事に帰る様にと此の熊野神社へ祈りを上げました。そして、垢離を取り、雨の降る日も風の吹く日も霜も雪も厭はず、跣足詣りを致しました。

又一方、法華經の一部を金文字で写すなど、熱心に夫の免さるゝのを神佛に祈願をこめました。或る夜の夢に、此の御經に手紙を添へて海に流さば夫に達するとの御告げを受けましたから、喜んで直ちに水の入らぬ様に包んで此の海岸から流しました。

島の四郎左衛門は、或る日海岸に出て魚釣をして居ました。そうすると、木片が1個自分の釣糸のところへ寄りました。邪魔になるから向ふへ押しやりましたが、又寄って来ました。いくら押しやっても寄って来ますから仕方なく取り上げて見ますと、不思議や之れは妻の菊女の一念のこもった法華經と手紙でありました。四郎左衛門は驚いて飛立つばかり

に喜んでおし頂き、再三之れを読み返しました。島の役人は之れを聞いて調べて見ると、如何にもこの不思議なことと、どれ程妻の菊女が夫を思ふ一念の強いかに感じてお上に申上りました。

時の將軍も大いに感じ入り、四郎左衛門の罪を免されまして大浜に帰る事が出来ました。菊女は大層喜んで神恩を謝しますために、六歌仙の画像や和歌を作り奉納し、また四郎左衛門は發起人となって莫大の金子と木材を寄附して社殿を改造し、基本金百両を奉納致しました。菊女は学問もあり、歌道のたしなみもあり、後世人の鏡となる様な行がたくさんありました。

私どもは之れを手本として自分々々の本分をつくすことに一心にならねばなりません。今は此の大浜の土地に一心舎と云ふのがありまして、謄写版のハート原紙と云ふものを作って売出して居ります。此の原紙は一心になり考へたものでありますから、綺麗に刷れて使ひよいのであります。原料や其の他の生産費から云ふと、割安に売って居るのです。使った人は皆な御存じです。社会から大層賞賛を賜りましたから、一心舎は皆様に御禮のためこの印刷見本を差し上げますから、読んでそうして世間の人々へ御傳へ下さい。

碧海郡大濱町一心舎

出典 | 「一心舎報 第5巻4号」(昭和9年)

一心舎(岡本功社長時代)の営業種目

岡本與一郎の長男・功が社長の頃の一心舎の事業は営業部、印刷部、研究部の3つの部門に分かれていた。営業部では、ハート謄写版・ハート原紙・ケイザイ原紙・一心舎ヤスリ・ハートインク・各種付属品・高級文房具・製造販売等。印刷部では、各種教科書・文芸雑誌・会報・研究物・予算や決算書・地図・ポスター等の印刷業務を行っていた。また、研究部では謄写印刷技術講習会の開催・講義録発行・謄写印刷法普及等がその主な事業内容であった。

一心舎の謄写印刷講習会

大正6年（1917）に創業した一心舎はその年にハート原紙を開発し、大正11年（1922）には、岡本父子が一心舎文字（謄写印刷文字）を考案した。

大正13年（1924）に第1回一心舎式謄写印刷講習会（会場：碧南国民学校）が行われた。これは謄写印刷技術の普及と自社製品（原紙や鉄筆等）の販売促進を兼ねて開かれたものである。講師陣は岡本與一郎と功・栗扶・万利の3人の息子で、三女・あきゑと四女・七子は販売を担当した。

昭和6年（1931）には第50回の講習会が開かれたが、年6回以上の割合で講習会が行われたことになる。昭和8年（1933）7月には愛知県教育会と碧南国民学校共催、一心舎謄写印刷研究会後援の講習会が行われ、受講者は80人以上であった。碧南国民学校の講堂で講義のあと、実習室で実技講習が行われている。また、別室にはハート原紙や文具類の即売所も設けられた。

昭和25年（1950）には棚尾中学校を会場に講習会が行われている。講習会ごとに受講者の作品をまとめた「謄写作品集」を発行するなどして一心舎は謄写印刷の普及に努め、官庁や学校等に利便を与えた。



碧南国民学校（現碧南高校）講堂で行われた第50回講習会（上）と講師の與一郎一家（下）

講習会テキスト・講習会作品見本と受講者の記念写真



謄写版の発明と歴史 (堀井新治郎・耕造父子の偉業)

<ガリ版>

明治26年(1893)、滋賀県蒲生町に住んでいた農商務省の役人・堀井新治郎は、簡易印刷機の普及を痛感してその職を辞し、印刷機の発明に没頭していた。アメリカ合衆国のシカゴで開催されていた万国博覧会の視察をし、そこでエジソンが発明した「ミメオグラフ」(謄写版)と出会い、簡易印刷機開発のヒントを得た。そして、「簡易な印刷機を発明し時間を有効に使えるようになれば、国や文化の発展に貢献できる」と確信して帰国した。

子・堀井耕造(二代目新治郎)も勤めていた商事会社を辞めて父子で簡易印刷機の研究を始めた。堀井家は代々近江商人の名家(醸造業)だったが、その資産をすべて売却して研究開発費に注いだ。そして、明治27年(1894)、ヤスリ板の上に乗せたロウ原紙に鉄筆で字を書いた印刷原稿を使用する簡易印刷機を発明した。その印刷機は、戸籍謄本文字から連想して「謄写版」と名づけられた。その年に東京神田で会社「謄寫堂」を創業し、謄写版の普及と販路拡大に努めていった。

堀井父子が発明した謄写版は明治28年(1895)には日清戦争の軍事通信に採用され、翌年には大学や商社、官庁、新聞・通信社が率先して使用し、謄写版の発明は明治期の印刷手段の大きな変革をもたらした。

謄写版は安くて簡易な印刷機として全国に普及し、大正期には中国大陸にも広がって世界的規模の商品となった。教育文化・芸術、軍事、報道通信、商業などあらゆる分野で使われ、手軽さから少部数の出版の演劇や映画・テレビ番組の台本、楽譜、文芸同人誌などにも多く活用された。謄写版は明治・大正・昭和にかけて国や文化の発展に貢献した印刷機であったといえる。

謄写版は第二次大戦後も使用されていたが、昭和30年代後半の高度経済成長期には謄写版に変わってコピー機が登場。さらにはワープロやパソコンによる印刷が普及し、謄写版の時代は終わった。

しかし、電源が必要でなく、安価で簡単、大量に印刷できることから東南アジアやアフリカ諸国の学校では今も謄写版を使っているところがある。また、謄写版を使った孔版画を楽しんでいる愛好家には根強い人気がある。



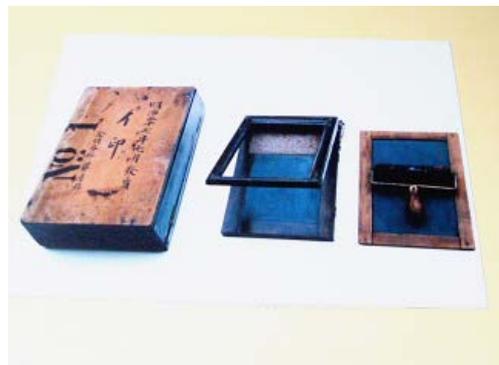
堀井新治郎



堀井耕造



エジソン発明「ミメオグラフ」



明治27年発明の謄写版1号機



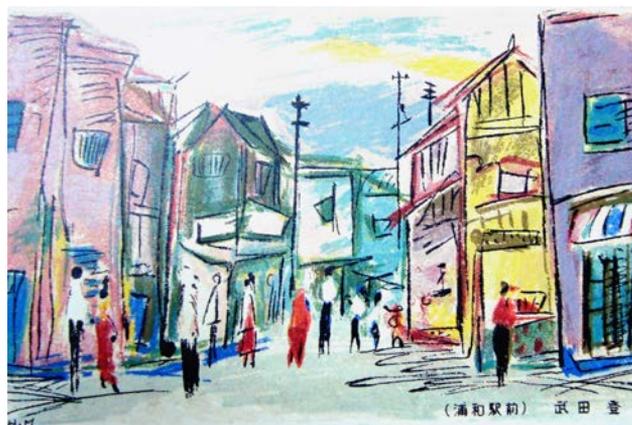
ガリ版伝承館(滋賀県東近江市)

堀井新治郎・耕造親子年譜

年号	西暦	出来事など
安政3年	1856	新治郎、駕輿丁村（滋賀県蒲生郡竜王町）で生まれる。
明治8年	1875	耕造、岡本村（滋賀県蒲生郡蒲生町＝現東近江市）で生まれる。
明治16年	1883	新治郎、堀井家に耕造の養父として迎えらる。
明治26年	1893	新治郎、官職を退く。耕造、三井物産を退社。父子で簡便な印刷機の研究に精進する。新治郎、印刷機開発の勉強でシカゴ万博を見学。エジソン発明の印刷機メモグラフなどを視察。
明治27年	1894	堀井父子、謄写版（鉄筆製版）を発明する。東京神田で「謄寫堂」を創業。
明治28年	1895	謄写版原紙が特許を受ける。謄写版が日清戦争で軍事通信に採用され大量注文を受ける。
明治29年	1896	官庁・大学・商社・新聞社・通信社が謄写版を使い始める。
明治43年	1910	堀井輪転式謄写機を完成し、特許を受ける。
明治44年	1911	「謄寫堂」上海・京城・天津・漢口・南京・北京に出張所を開設。
大正3年	1914	タイプライター原紙を開発。
大正4年	1915	「謄寫堂」を「堀井謄写堂本店」と改称。
昭和7年	1932	父・堀井新治郎没。（75歳）
昭和37年	1962	子・二代目堀井新治郎没。（86歳） 父子で発明登録649件。
昭和60年	1985	「ホロイ株式会社」に改称。
昭和62年	1987	ホロイ株式会社、謄写版生産を中止する。 以下略

参考文献

- ◆ 「碧南市史第2巻」（昭和45年 碧南市）
- ◆ 「碧南事典」（平成5年 碧南市）
- ◆ 「碧南市文化財第9集 碧南風土記抄」（平成7年 碧南市教育委員会）
- ◆ 「クイックス50年史」（平成9年 株式会社クイックス）
- ◆ 「トボトボ歩く碧南市・造船所のはなし」（平成22年）
（http://www.katch.ne.jp/~hiro32/atlantis/lost_sea11.htm）
- ◆ 「謄写版発祥の地・ガリ版伝承館」（滋賀県東近江市ガリ版伝承館）
- ◆ 「謄写版発祥の地…蒲生町 ガリ版伝承館」（滋賀県東近江市ガリ版伝承館）
- ◆ 「謄写版とその印刷物 度量衡 資料展示室」（滋賀県大津市ヒサダ昭栄堂）
- ◆ 「ガリ版印刷の祖 堀井父子の情熱」（滋賀県東近江市能登川博物館）



ヒサダ昭栄堂所蔵孔版画



ヒサダ昭栄堂旧店舗

協力 / 資料提供

- ◆ 岡本妙子氏
- ◆ (株) 一心舎
- ◆ (株) クイックス
- ◆ 滋賀県東近江市ガリ版伝承館
- ◆ 滋賀県大津市ヒサダ昭栄堂

あとがき

「謄写版」「ガリ版」と言っても、若い人達には何のことか分からないと思います。我々団塊の世代までの者にとっては、あのガリガリとロウ原紙を切る音や、鼻をつくインクのおいが懐かしく思い出されてくるのです。

日本の「書く」「読む」という情報文化は、長い毛筆時代を経て、木版、謄写版、謄写輪転機、謄写ファックス、手書きの青焼きコピー、タイプライター、活版、ワープロ、現代のコピー機やコンピュータまで、いろいろな方法が発明され進化を遂げてきました。

そのような情報文化の歴史から見れば、「謄写版」の時代はほんのわずかな期間であったと思われます。昭和40年代半ばに教員になった私達が謄写版でいろんな資料を作ったのは、10年ありませんでした。私達の中学時代が謄写版の全盛期ではなかったかと思えます。角張った字が細かくきれいに刷られた試験用紙を今でも思い出すことができます。

このように今となっては、謄写版は単に現代のコピー機やコンピュータに至る過渡的なものに過ぎなかったわけですが、文明を加速させたという点から見れば画期的な役割を担ったのです。毛筆では当然ですが、一人の発信者によって書かれた文書は、限られた受信者にしか伝わりません。ところが謄写版の普及によって、一人の書き手から多くの受信者に同時伝達が可能になりました。そして、江戸時代の瓦版（木版）などより何倍も大量かつスピーディーに作業ができるようになったのです。したがって、まだまだ上意下達の色濃い明治時代、官公庁などから急速に需要を伸ばしていったのです。

質から量へと急速な変換を遂げようとした日本の新しい文明を創り出すには、謄写版はなくてはならない道具であったのです。今の時代で言えばまさにコンピュータに匹敵する時代の寵児でもあったのです。その意味で、岡本家「一心舎」がこの地で謄写版文化を広めていかれたことは、碧南をはじめ三河の文化発展に大きな功績があったのではないかと思います。

岡本與一郎は造船業を廃業し、周囲の心配を背に一人欧米を旅するなかで、謄写版という新しい文明の利器を目にしたのではないのでしょうか。日本で最

初に謄写版を開発、普及させた（東京神田で創業）堀井父子ともきっとどこかで接点をもったのではないかと想像されます。時代の流れをすばやく察知し、造船業から謄写版業に商売換えを断行した與一郎の勇気と先見の明には感心させられます。

さらに私達は、岡本家寄贈の謄写版関係資料を見て驚いたことがあるのです。それは竹久夢二の絵を彷彿させるような色刷りの美人画や風景画が謄写版で刷られたものが多数あったのです。謄写版の色刷りなど見たことがない私達にとっては、「実用」としての謄写版に加え「芸術」としての文化があることに大きな驚きをもったのです。

そして、何と言っても謄写版は手書きであるが故の温もりが感じられます。筆者の個性や思いといったものが切々と読み手に訴えかけてくる力ももっているのです。ガリ版で書かれた担任教師の学級だよりなどには、端的にその妙味を感じることができません。

そんな思いの中、私達はもう少し謄写版のことを勉強しようと、平成22年10月27日に滋賀県東近江市にある「ガリ版伝承館」と大津市にある「ヒサダ昭栄堂」を訪れました。蒲生公民館長の門谷英郎氏の親切なご案内で、堀井親子の謄写版実用化に向けた壮絶な努力や今でもガリ版に魅せられた多くの人たちがみえることを知りました。浮世絵版画と見まがうほどの謄写版刷りの美人画などを現代に蘇らせてみえる方、謄写版を愛し、販売してこられた久田四良さん（明治45年生まれ）、そしてその子孫の方々が今でもその意思を継いで、大切に保管されていることを知り、大きな感銘を受けました。

最後になりましたが、貴重な資料等を快く本資料調査室に寄贈していただいた岡本妙子氏はじめ、謄写版関係の機具や謄写版で作成した資料等を寄贈された多くの方々に感謝申し上げます。この収蔵品展がある方々には懐かしさを、ある方々には新しい発見と驚きをもっていただけることを願い、あとがきといたします。

平成23年1月8日

碧南市教育委員会文化財課 市史資料調査室



御成婚奉祝模様 大正13年（1924）に裕仁親王（昭和天皇）の御成婚を祝し、一心舎が謄写版で創作した作品。



碧南市史資料調査室所蔵（岡本妙子氏寄贈）謄写版多色刷画

文中 敬称略

ご来場 ありがとうございます。

本資料の印刷にあたり、岡本妙子様、岡本節子様より多大なご協力をいただきました。厚くお礼申しあげます。

謄写版と岡本家（創業一心舎）展 主催：碧南市教育委員会

会期：平成 23 年 1 月 8 日（土）～ 30 日（日） 会場：碧南市藤井達吉現代美術館

碧南市史資料調査室 〒 447-0872 碧南市源氏神明町 2 碧南市民図書館中部分館 2 階 TEL 0566-41-4566

印刷：株式会社 一心舎